

和牛の子牛価格は時代と共に変わる!



牡犢の商品的価値は去勢をして改善しよう!

♂ヌキは、♀メスよりも3~4,000円方高値
♂オスは生後2~3カ月の哺乳中に去勢する

メス子牛はオス子牛よりも高値だとした観念は、今日では通用しなくなつた。最近のセリ市場の性別による平均相場について

性別による平均価格の比較表

性別	入場頭数	平均価格
メス	427	31,800
オス	94	27,200
ヌキ	322	35,200

(註) S39.5.20~23の高梁セリ市の成績

絶対に技術者により実施すること。

牡犢の大半は、若令肥育の素牛として利用されるのであるから、去勢の条件が揃つた牛は、去勢して、商品価値を高めて販売していただきたいものである。

(1) 去勢を行なう牡犢の基礎条件

- 1) 去勢牛は生後5カ月以上哺乳し得ること。
- 2) 肥育牛の素牛としての資質(皮膚被毛)の良好な犢であること。
- 3) 發育旺盛な犢であること。(消化器障害犢、哺乳量の少ないものは駄目)
- 4) 体中及び深みのある肋脰、腹容のある犢を行なう。
- 5) 去勢方法としては、手術去勢の方が牛の為によろしい。但しセリ市出荷1カ月前には実施しておくこと。

比較してみると、かえつてヌキ子牛の方が有位になつている。

(2) 哺乳中に去勢しても發育は劣らない

去勢すると牛の發育が劣ると思われやすいが、早期に去勢(生後2~3カ月)を行なえば發育には影響がない。

哺乳中に去勢すれば

- 睪丸はまだ発達していないから去勢の効果が最も大きい。
- 手術も簡単にできる。
- 手術の影響が少ないのと、栄養がよいので手術の回復が早い。
- 發育に影響がなく、よい肥育の素牛が出来る。

(3) 去勢の時期とその後の發育

中国農試畜産部で昭和32年11月~33年7月市場までに出場した去勢犢の似寄つたものを選び、生後日数、体重、セリ価格を調べたのに、去勢によつて發育はそこなわれていない。

出場時の生後日数と体重

性別	選定頭数	生後日数	体重	価格
牡犢	60頭	200.6日	168.9Kg	23,321円
去勢犢	80 "	213.7 "	213.7 "	26,006 "
差	—	13.1 "	17.5 "	2,685 "

和牛は古くして、時代と



第3回通常総会優良団体表彰 南和気農協を訪ねて

本会は昭和38年度より重点事業として、和牛の経済性を高める上から、子牛の有利な販売、所謂子牛の商品的価値の高揚を図るため、『和牛子牛規格向上運動』を展開している。

過日の第3回通常総会について運動要綱に従って、優良団体表彰として、知事感謝状及び県総合

畜連会長表彰を行った。

表彰した南和気農協は、昨年度中出場頭数126頭、平均価格34,067円、家畜セリ市場の利用(系統販売)面から最優秀であり、和牛に対する農協の振興対策も一般に参考になる点が多いので地域の畜産概況を次の通り紹介してみる。

地域の畜産概況

久米郡柵原町 南和気農業協同組合

I 地域畜産の概況

農家戸数 423戸 和牛飼育農家の戸数 176戸

(39.3.31現在)

飼養頭数 291頭

内 訳

生産用雌牛 204頭 育成雌2才 12頭
肥育ヌキ2才 16頭 犢雄ヌキ 26頭
犢雌 33頭

農業所得 77,401千円

畜産所得 27,401千円

畜産所得の内訳

鶏卵 90,000Kg 16,200千円
子牛 141頭 4,910 "
肉牛 36 " 3,491 "
肉豚 540 "
牛乳 2,260 "

II 地域の畜産振興計画

1. 地域の特異性

全国の硫化鉍需要の70%を供給している同和鉍業柵原鉍山の所在地で鉍山労働者の兼業農家が50%を占め農業従事者の老令化婦人化が特に著しい。

2. 和牛振興計画樹立の根拠

労力を要することの少い畜産、地域内50町歩に及ぶ原野の草生改良畑及水田裏作牧草に依る経済飼育が可能。

南和気農協は、鉍山の町として、昔から農業経営において他の地域とは異つた形態があつた。特にこの地域が兼業農家が多いことにおいて、新しい時代的、先見的考えから、現在の寒竹組合長は、自分から率先垂範5~6年前から和牛産地(阿哲、真庭、津山)より優秀基礎牝牛100頭を導入し生産基盤の整備を図り、それに和牛の特異性を伸ばす様にこれまでの飼育慣習を改善すると共

3. 農協の畜産に対する体制

- ・融資対策 融資額導入牛(生産用雌牛、肉用素牛)購入価額の80%(一部近代化資金)
利子補給 5% {町 3% (近代化資金利子補給金の外) 7カ年継続実施
農協 2%}
- ・導入 金額 畜連及農協扱
- ・指導 農協家畜人工授精所の設置と優良種雄牛の設置
家畜名簿の整備と登録、生産、出荷の指導調整
共進会(肉用牛種牛、子牛、牧草)
- ・流通 子牛、成牛、肉牛、全頭農協扱(系統共販、系統購買)

4. 今後の目標

- ・頭数 350頭 内訳 {生産用基礎雌牛 200
肥育用ヌキ雄 150}
- ・経営形態 生産と肥育の複合経営
雄子牛の全頭保留育成、肉牛として1カ年間肥育出荷化
- ・目標 子牛規格
雌 200日哺育 平均体重205Kg(54貫)
雄 200日哺育 平均体重225Kg(60貫)
価格 雌 40,000円 雄 45,000円

5. その他

肉畜の流通機構を整備改善して全県下の和牛取引を全額系統農協一元化を確立してその経済効果に期待する。

に、和牛の生産及び肥育の複合経営を行い和牛の経済性を強調する一面、和牛当面の問題点である『子牛の規格向上運動』の徹底と自給飼料対策或は単協では困難視されている大家畜(和牛)の取引について、全頭農協扱い、系統組織による一元化を図り、これまでの古い畜産の殻を脱し、流通改善が強力に推進され、農協の畜産振興体制が築かれている。

共に、つねに新しい!!